17、作業活動（中卒以上）の検討
― 入院患者の作業・職能（趣味）調査報告 ―

国立岩木療養所
佐　藤　　勇

〔はじめに〕

筋ジス患者の傾向として、障害が進むにつれて内面に閉じこもり、自治会等で話し合うことを苦手とし拒否的態度に出る患者を時々観察しうる。これらの患者が製作活動を通じて自信を回復し、社会参加にいたった事例を多く体験してきました。現在作業は、入院生活の一部に位置付くにいたっております。しかし今後改善を要する諸問題（意欲・方法・物理的面）も存在します。七宝焼・社会学級に代表されるように製作活動も広く研究されておる中で、全国的に実施されている内容・方法等の実態を把握し諸問題解決の基礎資料とするべく、①作業内容・方法、②担当職員の意見、二点について調査しましたので報告いたします。

〔方　　法〕

＜調査対象施設＞　昭和52年４月現在筋ジス収容の確認できた21国立療養所。（回収17療養所）。

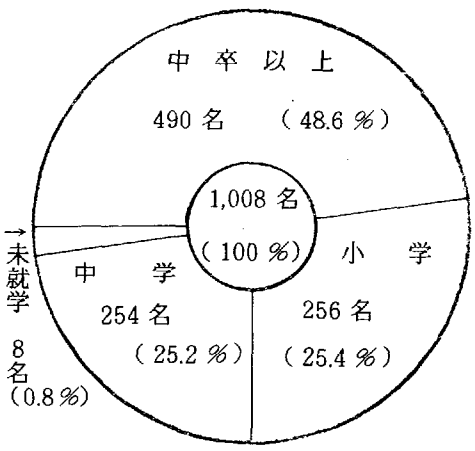
＜内　　容＞　調査範囲は、作業・職能・訓練・趣味等の製作活動（以下作業と称す）。

＜方　　法＞　質問用紙を配布し、直接担当しておる職員が記入し送付する。

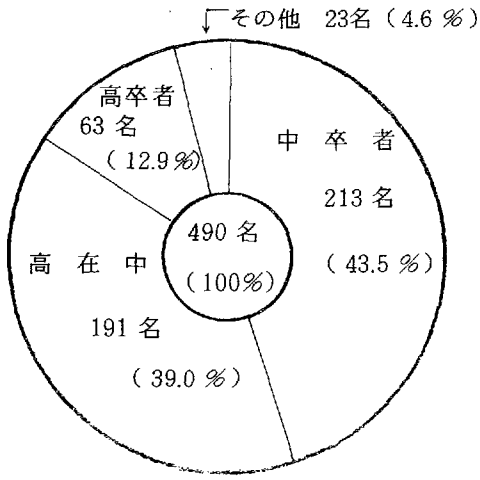
〔調査結果〕

＜療養所（病院）の現状・内容・方法＞

（第１図）患　者　数



（第２図）　中卒以上の学歴



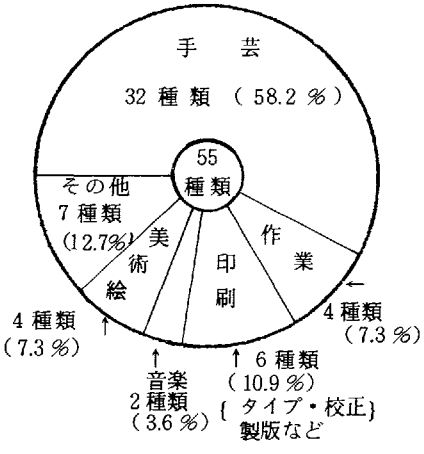
（第１表）中卒以上の病型別

病　型　別	人　数	比
D　　型	305 人	69.0 %
ベッカー型	4	0.9
L　G　型	32	7.2
F S H 型	10	2.3
その他のＰＭＤ	30	6.8
非 P M D	55	12.4
未　確　定	6	1.4
計	442	100.0

（第２表）中卒以上の障害別

障　害　別	人　数	比
動揺性歩行	43 人	11.9 %
歩 行 不 能	267	74.0
Bed Patient	51	14.1
計	361	100.0

（第３図）作業内容



（第３表）　手芸内訳

種　別	延施設	比	種　別	延施設	比
刺しゅう	17	25 %	革 細 工	4	5.9%
造　花	8	11.7	紙 細 工	5	7.3
ビーズ細工	9	13.2	そ の 他	14	20.7
七 宝 焼	11	16.2	計	68	100.0

（第４表）　作業時間

時　　間	延作業数	比
1 時間以内	11	13.6 %
1：10 ～ 1：30	21	25.9
1：40 ～ 2：00	17	21.0
2：10 ～ 2：30	7	8.6
2：40 ～ 以上	8	9.9
自主的時間	17	21.0
計	81	100.0

（第５表）作業人数（１グループ単位）

人　　数	延作業数	比
1 ～ 3 名	24	25.8
4 ～ 6	34	36.5
7 ～ 9	19	20.4
10 ～ 12	3	3.2
13 ～ 16	10	10.9
17 名以上	3	3.2
計	93	100.0

作業指導の方法では、講師の導入を継続的に、あるいは一時的に多くの作業にわたって試みられております。又展開としましては、患者の自主的活動の他に社会学級講座、日本筋ジストロフィー協会の福祉作業などと提携した形で行なわれておるものも多くあります。

＜作業を直接担当しておる職員の意見＞

①患者の重症化傾向に対する介助面、②患者ニードの多様化に即応した指導（作業）内容、③場所確保の工夫、などが主な課題として述べられておりました。

〔考　　察〕

この度の集計は単純集計にとどまってしまったが、その中でも　症化傾向を前提とした意欲・疲労・準備・移動問題の対策が必要と思われます。②作業内容は地域に関係なく全国的に共通した内容が実施されており、今後情報交換をすることにより実践面の向上が得られると思われます。③指導者（講師）の導入も種々あり情報交換が必要と思います。④社会的評価・社会参加は今後の検討内容であると思います。以上の点が整理できます。（なお詳細については、発表当日配布した資料を参考にして載きたいと思います。）

18、成人筋ジストロフィー患者の心理特性に関する研究

国立療養所箱根病院
稲　永　光　幸

ＰＭＤの心理面での問題点は、従来いろいろ指摘されており、入院生活においても、彼等の心理特性を踏まえた上での配慮が必要となっている。この必要性から、入院中の成人ＰＭＤに心理検査を行なった。ＰＭＤに加え、各種筋萎縮症の患者に対しても検査を行なったが、共通する心理特性を示した Kugelberg-Welander 氏症の結果も合わせて報告する。実施した検査は、ロールシャッハ検と文章完成法検査の２種類で、知的水準をチェックする意味もあってＷＡＩＳ 成人甲知能検査も加えた。

知能検査の結果では全ＩＱ平均で、ＰＭＤ 78.8 、Ｋ－Ｗ77・７ とほぼ同一であるが、ＰＭＤにバラツキが大きい。下位検査間での差はみられなかった。

ロールシャッハ検査の結果（ＰＭＤ５名、18才～29才、いずれも男。Ｋ－Ｗ５名27才～35才、男４、女１）　：特徴的な点を数値によって示すと次ページのようになる（全体の平均）。

検索用テキスト　OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔はじめに〕

筋ジス患者の傾向として、障害が進むにつれて内面に閉じこもり、自治会等で話し合うことを苦手とし拒否的態度に出る患者を時々観察しうる。これらの患者が製作活動を通じて自信を回復し、社会参加にいたった事例を多く体験してきました。現在作業は、入院生活の一部に位置付くにいたっております。しかし今後改善を要する諸問題(意欲・方法・物理的面)も存在します。七宝焼・社会学級に代表されるように製作活動も広く研究されておる中で、全国的に実施されている内容・方法等の実態を把握し諸問題解決の基礎資料とするべく、①作業内容・方法、②担当職員の意見、二点について調査しましたので報告いたします。